

日本は高齢化・少子化社会への変化が加速している。この宇城・三角地区は熊本市内などの都市部より早く過疎化、超高齢化が進んでいる。平均寿命が男性79.6歳、女性86.3歳となったが、長寿社会には多くの課題がある。病院に通ったり介護を受けずに自立した生活を送れる健康寿命は、男性70.4歳、女性73.6歳で、平均寿命より10年程短くなる。この介護や医療が必要な10年を支える壮年・若者世代の負担を軽くするために、高齢者も自分の健康は出来るだけ自分で守る事が必要である。整形外科は寝たきり老人を減らすために、ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）という病気を提唱し、予防を訴えている。

整形外科の病気や骨折で、骨や筋肉、神経が弱って寝たきりになる人は、1位の脳卒中中の23.3%に次いで2位の21.5%にもなっている。認知症の14.0%や衰弱の13.6%よりも多いのである。

ロコモの原因には、加齢による筋肉の衰えや、関節や背骨の変形・老化がある。具体的には、変形性膝関節症や変形性脊椎症腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症に伴う背骨や四肢の骨折である。膝や腰の痛み、手足の骨折が寝たきりになる原因である。

この寝たきりになる危険を自分で気づいて予防しようという試みがロコモ対策である。

整形外科は週3回の外来日があり、2012年度は延外来患者数6,373名であった。入院延患者数は8,972名であった。

当院にはMRIや骨密度測定、高機能なCTなど精密検査機器を備えており、膝や腰の痛み、手足の骨折に対して正確な診断と最善の治療を行うよう努めており、膝や肩の痛みには関節内注射を行い、腰痛や坐骨神経痛には神経ブロックなど除痛効果の高い注射を行った。また、ひどい骨粗鬆症からくる腰痛には、骨を作る効果があるフォルテオという注射を使用することで、飲み薬では効果がなかった人たちにも治療できるようになり、膝の変形や脊柱管狭窄症、骨折などで手術が必要な人には手術を行なっている。

2012年度の手術件数は136件であった。主な手術は、高齢者の大腿骨転子部骨折の骨接合術26例、大腿骨頸部骨折の人工骨頭置換術12例、四肢の骨折の骨接合術48例、人工関節置換術9例であった。

その他リウマチ患者さんの足の変形の矯正や、手のシビレの原因となる手根管症候群や肘部管症候群などの神経に対する手術が41例であった。2013年度も宇城・三角地区で、膝や腰の痛み、手足の骨折の治療を行なう中核医療機関となれる

よう取り組んで行く。

